

令和元年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

整理番号 4 - 4 - 9

事務事業名	金磯地区まちづくり事業			担当課係	まちづくり推進課 都市計画・開発担当
総合計画上の位置付け	政策	① 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり		記入担当者	井内 隆輝
	基本目標	2. 快適な暮らしづくり		内線等	235
	施策	2-1 快適な生活・都市基盤の整備		E-mail	machidukuri@city.komatsushima.lg.jp
	基本方針	2-1-6 市街地の整備			
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	8	土木費	項	7 都市計画費
	目	4・94 金磯地区まちづくり事業費・金磯地区まちづくり事業費（緑地明許費）		事業	2 金磯地区まちづくり事業
開始年度	昭和58	年度	根拠法令・要綱等	小松島市まちづくり条例、金磯地区開発行為等施工基準要綱	

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	(誰の、何のために事業を実施するのか) 金磯地区基本計画区域内の住民及び同区域内において開発行為・建築行為を行う者
事業の目的 (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) 金磯地区基本計画に基づき、行政と住民及び開発者との協力により、区域内の道路、排水路や公園等の公共公益施設の整備を進め、市街地環境の向上を目指す。
事業の内容 (内容・手法等)	(どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) 金磯地区基本計画区域内において、道路、排水路、公園等の公共公益施設の整備を、市、開発者共同負担及び開発者個別負担の役割分担の上、行う。
事業の背景 (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 金磯地区基本計画区域内は昭和57年度まで開発規制がなされていたが、昭和58年4月に策定された金磯地区基本計画に基づき、市と開発者による共同負担による整備及び開発者による整備が行われることとなった。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果
	単位	開発行為及び建築行為届の状況	寄付行為を伴わない開発・建築行為を含む				
		H30	R1	R2	R3	目標年度 目標値	
m ²	目標	3,000	3,000	3,000	3,000		
	実績	1,190	0				
	達成度	39.7%	0.0%				

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H30	R1	R2	R3	指標の説明
	計画	実績						
不動産鑑定評価	計画		箇所	1	1	1	1	開発者負担行為の根拠
	実績			1	1			
	計画							
	実績							
	計画							
	実績							

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

(単位：円)

全体コスト (円)	関連事業費	H30年度決算		R1年度決算		R1年度予算		R2年度予算		
		金額	人件費	金額	人件費	金額	人件費	金額	人件費	
A	直接事業費	直接事業費	13,352,040	1,896,111	82,026,977	3,304,835	97,134,000	3,044,000		
		財源内訳	国県支出金	0	0	0				
		地方債	5,300,000		46,500,000					
		利用者負担	0		0					
		一般財源	8,052,040	8,052,040	35,526,977	35,526,977				
	B	人件費 ①×②	1,896,111	1,896,111	3,304,835	3,304,835				
		職員平均人件費①	4,740,277	4,740,277	4,721,193	4,721,193				
		従事した割合②/人	0.40	0.40	0.70	0.70				
		A + B	15,248,151	15,248,151	85,331,812	85,331,812				
		単位コスト	活動指標の説明	開発行為等面積	開発行為等面積					備考
	活動指標 1 単位当たりコスト	12,814	12,814					平成30年4月1日現在 人口38,156人		
	市民一人あたりのコスト	400	400	2,258	2,258			平成31年4月1日現在 人口37,795人		

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 金磯地区基本計画区域内の生活環境向上のため、公共公益施設の整備を進め、住みよい街づくりを目指す。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 当該地区は開発行為等を行う者に対して寄付等の負担を求めている、他地区と比べて不公平感や負担についての意見・要望が多い。また、浸水被害については排水路等の整備により改善しているが、区画道路の整備が遅れている。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	昭和58年4月に策定された金磯地区基本計画に基づき、道路や排水路等の公共公益施設の整備を進めてきたが、近年、豪雨時の浸水被害等が度々発生していることから、より一層の良好な市街地環境を形成する必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	道路、排水路及び公園等の公共公益施設を住民や開発者と協力しつつ、市が主体となって計画的かつ効率的に整備する必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいか、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	金磯地区基本計画に基づき、道路、排水路等の整備を段階的に行っているが、開発がある場合のみ個々の開発者負担が算定され、個別の整備を段階的に進めているが、沿線の開発が揃わないと整備に着手しにくい、時間がかかり非効率的ではある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	金磯地区は低平地であるため、台風や集中豪雨の際には、たびたび浸水被害が発生していた。このため、被害の低減に向けて幹線道路及び排水路の整備を優先的に進めている。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	金磯地区内の枝線水路の整備により、浸水被害の軽減に繋がり、周辺住民の住環境の改善が進んだ。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	他地区を開発する場合と比較して、当該地区の開発に負担が伴うことから、住民から不公平感や不満の声がある。このため、地元の理解を得ることが重要であり、整備を推進する際には、理解を得られるように努める必要がある。 また、発生が予測される南海トラフ巨大地震・津波等の災害に備えた、道路整備や公園などの防災・減災対策の取り組みを計画的に進めていく必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
2		3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点	評価点	66
		4 終期設定し終了	20 ~ 39 点	2	
		5 完了・休止・廃止	19 点 以下		

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
2		3 改善・効率化し継続	金磯地区基本計画に基づき、当該地区の道路や排水路等の整備は一定程度進んでいる。今後は、公園等の公共公益施設の整備についても計画的かつ効率的に進めていく必要がある。
		4 終期設定し終了	
		5 完了・休止・廃止	